

すすめ！外宮さんにちなんだ“どんぶり”プロジェクト

◆食の神様のお膝元から、「伊勢うどん」につづく名物を！

伊勢観光活性化プロジェクト会議（一言でいうと「誰でも参加できる伊勢の観光まちづくり団体」です。何それ？っていう方は、このHPの活プロ取り組みをクリック！）の有志メンバーから生まれた“食”部会。ここでの話し合いから“どんぶり”プロジェクトはスタートしました。

平成20年夏。食部会のメンバーは悩んでいました。

＊悩み・その1＊

伊勢市には、歴史的にも文化的にも、すごく価値の高いものがたくさんある。

中でも伊勢神宮～外宮・内宮～は、世界に誇れる伊勢の宝物。でも見わたすと、内宮さんのまわりにはすごいにぎわいがあるのに、外宮さんのまわりはなんだか寂しく、伊勢市駅前もさびれていくばかり。なんとか外宮さんににぎわいを取り戻したい！

＊悩み・その2＊

外宮さんにいらっしゃる神さまは豊受大神さまという神さまで、内宮さんにいらっしゃる天照大神さまのお食事をつくっているんです。そういう「食」の神さまのお膝元で、私たちが外宮さんから学ばせてもらっていることを、分かりやすくお伝えできたらなあ・・・。

そんな中、ひとりのメンバーが言いました。「どんぶり、つくってみたら？」

「そうや、神嘗祭という、初穂を神さまにお供えするお祭りがあるから、その日に誕生させたらいいんとちゃう？」

「お食事を通じてやったら、楽しく外宮さんから教わっていることをお伝えできるしな」

「どんぶりやったら、肩がこらへんし、手軽やしなあ」

「外宮さん前ににぎわいも、取りもどせるかも」

「伊勢うどんみたいに、いろんなお店で売ってほしいなあ」

そんなこんなで、「来年、平成21年10月15日に、外宮さんにちなんだどんぶりを誕生させます！」という若き好青年・若林新平実行委員長の宣言のもと、平成20年11月に「外宮さんにちなんだどんぶりを創ろう実行委員会」が組織され、プロジェクトがスタートしたのです。

◆“どんぶり”で何を伝えたいか？

今、「食の安全がおびやかされている」とか、「日本の食料自給率が低い」とか、いろいろ言われてますよね。考えると難しい、すごく大きな問題です。

そんな中で外宮さんを見ると、おいしい作物を調理して、朝と夕方と2回のお食事を作っているんですよ。ただもうシンプルに毎日毎日、1,300年以上も前から。すごく、心うたれませんか？

今表面に出てきているフクザツな問題は、みんな、基本を忘れてるから。基本は、いつだって単純でかんたんでみんなの心を気持ちよくしてくれます。

それは何かというと・・・「いただきます」と「ごちそうさま」、そして伊勢観光活性化プロジェクトの基本理念でもある「おかげさま」の心です。

◆「いただきます」と「ごちそうさま」、そして「おかげさま」

ごはんを食べる、って、すごくだいじなこと。ごはんを食べないと、体に栄養が入らなくて、生きていられませんよね。

でも、「体に栄養」は目に見えるからよく分かるけど、実はごはんを食べることで、「心」にも栄養をもらっているんですよ。

自分に食べられるためにささげてくれた、生き物たちの命。

材料を作ってくれた方々の心、材料をとってくれた方々の心、食事を作ってくれた方々の心。

こんなふうに、みんなの「心」もいっしょにいただいている。考えてみたら、そうですね。

自分は「生きている」のではなく、人や動物や草や木や、土や水や空気や、自分を取りまくすべてに「生かしていただいている」。

ほんとうにありがとう。すべてのものに感謝します。

それを、ひとことで言いあらわしたのが、「いただきます」と「ごちそうさま」、そして「おかげさま」です。

これが、私たちが外宮さんの姿から学び、お伝えしたいことです。

◆「お米」について

「お米」って、すごいんです。

作るのには少し手がかかるけれど、毎年同じ土地で作ることができるんです。（農業になじみのない方は「どこがすごい？」と思われるかも知れませんが、でも、野菜には「連作障害」と言って、同じ土地で何年も作ることが難しいものがたくさんあるんですよ。）

それに、何年も保管ができるんです。

季節やお天気で、食べものがとれないことも多かった昔の人々にとって、「お米」は手をかけさえすればちゃんと育ってくれて、何年も保存できてしかもおいしい、大切な食糧だったんでしょうね。

元気、気持ち、気が晴れる・・・人の心や身体のはたらきをあらわす「気」は、昔は「氣」と書かれていたそうなんです。そう、「氣」のエネルギーの源は、「お米」。私たちの祖先が、どれだけお米に助けられ、お米を大事にしてきたかが、分かるような気がします。

その昔、天照大御神さまが、「これで日本の国の人たちを養いなさい」と、稲穂を渡されたのが、稲作のはじまりとされています。伊勢神宮では神田をつくって、1,300年以上前から自分のところのお米を、神さまに食べていただいています。もちろん、外宮さんでおいしく調理して、です。

◆「外宮さんにちなんだどんぶり」の外宮さんへのちなみかた

よく聞かれる質問に、「“外宮さんにちなんだ”っていうけど、どうちなむのかよく分からないんだけど・・・」というのがあります。

これについて、私たちは「これが“ちなむ”ということなんだよ」と具体的には答えられません。

ただ、さっきから書き連ねてきた私たちの思いに対し、「これなら、わたしたちのお伝えしたいことがよく伝わる。そういう“ちなみかた”があったんだ！」と目からウロコ状態になる、そんなメニューが誕生すればいいなあ、と思っています。